周産期医療助産師活用推進事業

助産実践能力強化研修会

日時　令和 3 年 2 月 13 日(土)　10:30～15:30
会場　公益社団法人山口県看護協会　新館 2 階第 1 研修室
対象　助産師、保健師、看護師、准看護師

Ⅰ　中堅助産師研修　　10:30～12:00

令和 2 年度は COVID-19 感染症拡大及び感染症拡大防止対策が、助産学の講義・実習へ大きな影響を与えた。令和 3 年度は、コロナ禍で助産学を修了した学生を新人助産師として各医療機関が受け入れる初めての経験となる。今回の研修では、臨床で新人指導に関わる助産師等と臨地実習の代替策として行われた演習や従来とは異なる学生生活を共有し、自施設の教育計画を考える機会としたい。併せて、助産実践能力習熟段階(CLoCMiP®)の専門的自律能力「教育・指導」として新人や後輩・学生指導に必要な成人教育や経験学習について学ぶ。

講　演　　コロナ禍で助産学を学んだ学生の状況と新人教育・後輩指導について
講　師　　山口大学大学院医学系研究科

Ⅱ　助産師出向支援導入事業研修　　13:00～15:30

産科医不足により分娩可能施設が減少する中、多様なニーズに応え誰もが安心して子どもを産み育てる環境をつくるためには、質の高い助産師の育成と活用が課題である。これらの課題において、厚生労働省では助産師を活用し、都道府県における助産師就業の偏在を解消するとともに、出向する助産師の助産実践能力の強化、助産学及び看護学生（母性看護学）の実習施設確保を図り、地域において安心・安全な出産ができる体制を構築するため、助産師出向支援に対する取り組みを行っている。

本研修では、子どもと子育て世代を対象にした地域包括ケア推進について、日本看護協会の取り組みと県内の事例から自施設での今後の活動を考える。併せて助産師出向支援導入事業への本県の取り組みを紹介し事業の周知を図る。

1 講　演　　母子のための安心・安全な地域包括ケアシステムの構築　web 研修
　講　師　　公益社団法人日本看護協会　常任理事
2 活動報告　周産期母子医療センターと行政が連携した取り組み
　1）周産期母子医療センターの取り組み
　　JCHO 徳山中央病院　周産期母子医療センター
　2）行政の取り組み
　　周南市役所こども・福祉部
　　あんしん子育て室　こども・子育て相談センター
3 山口県助産師出向支援導入事業の紹介
　公益社団法人山口県看護協会